

編輯委員會

第 9 回編輯委員會 (昭 10・9・2)

出席者：藤井橋樹長、岡田、龜田、瀧淵、成瀬、野口、福田の各委員

協議事項

(1) 第 21 卷第 8 號所載論說報告に對する副議依頼先を決定せり。

(2) 第 21 卷第 8 號所載工事及災害寫眞、論說報告、彙報及び抄録の謝誌を決定せり。

(3) 第 21 卷第 9 號に下記原稿及び原稿を追加せり。

工事寫眞：竣工せる處南南道郡岩橋、竣工せる大阪市長橋可動堰

災害寫眞：青春縣下水害狀況、鐵道水害狀況

論說報告：信濃川水力發電取水堰堤假縮切工事に就て(會、工、小田金治)

彙報：第 10 回國際航海會議に就て、關西及北九州の水害報告(會、工、伊藤剛) 京阪地方鐵道水害概況(鐵道省工務局保線課)

抄録：紐育州 Albany 市に於ける Symurt の災厄(小林)、コンクリート道路に就て(吉藤)、補助橋の支脚として用ひたるコンクリート杭(吉藤)、Richmond 市の興味ある橋梁建設計畫の完成(吉藤)、Armen 製柱底壁(吉藤)、Ravine 式中空ブロックの岸壁(吉藤)、Meillon に於ける Elbe 川の新橋梁(小野)、高 7.7 m もある梁構造の側墩(米屋)、鐵筋コンクリートに於ける鈎の作用(米屋)、鐵筋コンクリート床版による基礎地盤の試驗(米屋)、320 呎の木製無線電信塔(糸川) 斜吊材を使用した鐵筋コンクリート拱橋(糸川)、最近 5 年間の應力計の進歩(糸川)、木材の品質と等級に就て(糸川)

(4) 第 21 卷第 10 號發載原稿を下記の通り決定せり。

論說報告：小鉄線の衝擊に依るセメントモルタル及びコンクリートの破壊狀況に對する補遺(會、工博、福田武雄)、天龍川橋梁樑桁の輕式架設工事(會、工、藤井松太郎)、慶尚南道郡岩橋工事報告(准、井山安藏)

討議：端部に於て懸踏面を有する長柱の安定問題(准、工、最上武雄)、同上(著、會、工、樋浦大三)、擁

壁の安定増大の二三の方法に關する實驗的研究(伊黒田静雄)、同上(著、會、工、松尾春雄)

彙報：愛媛縣長濱大橋架設工事概要(會、工、田良一)、靜岡地方観害報告(會、工、西茂一、會、工、島茂)、清洲國河川測量規定、國際橋梁協會報告

抄録：鉛の機械的性質とその塑性理論(赤ノモグラムに依る) 腐蝕銀配列の決定法(糸川)、木防火剤に關する實驗報告(奥田)、アーチ列の静力学に關する模型實驗(奥田)、Belgrad 市 Save 河にきた新道路橋(奥田)、木管の漏水決定法(米屋)、鉄桁の發着(奥田)、全露接の工場構造(奥田)、So 河口に關する模型實驗に就て(木間)、流水の掃流力(木間)、渦のな、閘門取水口の進歩(木間)、橋上の荷重の進行(長瀬)、長路の放流築による下水法(竹内)、二つの鐵筋コンクリート構造物の損壞の對策(福田)、コンクリートの衝擊強さと壓縮強關係(福田)、世界最大の鐵筋コンクリート拱橋(1) 特許紹介：6 件及び登録實用新案 22 件

日本工學會記事

(昭和 10 年 8 月 13 日午後 1 時 30 分より日本工業俱樂部に於て第 8 回工務會大會委員發展會係第 1 回打合せ會を開催し次の事項を打合せたり。

- (1) 發展會の名稱 (2) 期間 (3) 觀覽 (4) 會場
- (5) 出品勸誘先 (6) 出品勸誘先の調査 (7) アナウンスメント (8) 其他。

その他の記事

(昭和 10 年 8 月 8 日明治以前日本土木史申込期間を 8 月末日まで延長せることを全會員官公衙、學校、圖書館、土木關係諸會社、諸に通知し申込を勸誘せり。

(昭和 10 年 8 月 28 日第 7 回役員會に於て一任に決議したる 8 月分退會の件を理事會にの通り承認せり。

緒方虎之助君外 18 名を會員に、青柳遊を准員に、三谷純義君を學生員に入會を、鷹次君外 1 名を准員より會員に、戸

を學生員より准員に轉格を承認せり。會員井上辰太郎君外8名は死亡せり。

○昭和10年8月10日までに於て下記諸君を入會並に轉格の手續きを了し名簿に登録せり。

入會の部

會 員

氏 名	勤 務 先	氏 名	勤 務 先	氏 名	勤 務 先
緒方虎之助君	奈良縣廳土木課	廣岡宮之助君	大同電力日本水力出張所	水野次太郎君	静岡縣沼津土木出張所
木野藤次郎君	兵庫縣瀨波臨時土木出張所	星 忠 義君	鐵道省長岡建設事務所	村上 義 造君	九州電氣軌道會社
五 藤 豊 吉君	徳島縣海田川改修事務所	星 宮 求君	新鐵大陸鐵道事務所岡原係	村上 勇 治君	矢作水力株式會社
佐 藤 九 郎君	瀧川河川建設局第二技術處	堀 信 一君	東京市土木電路管理課	村橋 恒 造君	鐵道省長岡建設事務所
新 谷 昂 吉君	鐵道省北海道建設事務所	松 瀬 夏 次君	東京瓦斯會社工務部建設課	山 岡 茂 君	北海道廳室蘭土木事務所
根 本 吉 政君	海陸牡丹江建設事務所	松 光 直 好君	静岡縣富士川工務所	山西 石 貞夫君	青森牡丹江建設事務所
濱 田 捷 君	東京市土木局				

准 員

青 柳 通君	大阪市港灣部技術課	周 防 正 明君	内務省愛媛國道改良事務所	長 嶺 仁君	岩手縣入釜土木管區
新 井 義 介君	東京市土木局橋梁課	須 藤 壽 英君	長岡縣長岡土木事務所	平 田 茂 憲君	鐵道省哈爾濱建設局瀋陽地設事務所
井 上 正 夫君	瀧川河川建設事務所	須 見 一 男君	徳島縣土木課	福 澤 將君	東京市土木部橋梁課
井 手 顯 三郎君	徳島縣德島土木出張所	末 久 秀 一君	平安南道廳土木課	福 地 武 夫君	東京市土木局瀧川區出張所
井 深 功 君	横濱市水道局工務課	關 谷 正 雄君	山形縣米澤土木出張所	藤 田 甚 吉君	内務省東京土木出張所
伊 藤 滿 夫君	朝鮮總督府内務局土木課	關 屋 裕 君	大阪市港灣部	藤 峰 宣 昭君	徳島縣德島土木出張所
生 藤 興 吉君	徳島縣海田土木出張所	高 島 三 郎君	横濱市水道局工務課	藤 村 重 一君	徳島縣川島土木出張所
小 田 仁 君	鐵道省濱川電氣事務所	瀧 澤 昇 君	矢作水力會社工務課	舟 木 晃 正君	東京市土木部橋梁課
大 塚 淺 次郎君	東京市土木局足立區出張所	竹 本 辰 夫君	秋田縣盛岡土木事務所	船 越 勇 君	巴橋市京都市計課
大 塚 清 重君	札幌鐵路保線事務所	竹 田 秀 賀君	佐世世海軍駐泊部	星 野 戒 直君	徳島縣且和傳土木出張所
大 西 宗 幸君	鐵道省北海道建設事務所	積 田 廣 君	滋賀縣栗田川區及根張出所	堀 田 之 武君	山形縣且内川地設事務所
大 西 新 雄君	鐵道省内務局高島市土木事務所	手 塚 武 比吉君	東邦電力名倉地設所	眞 山 親 雄君	鐵道省大連保線區
笠 原 保 一郎君	青々哈爾濱鐵路工程處改良科	土 井 敦 夫君	佐賀縣地籍地課	増 井 京 三君	徳島縣川島土木出張所
片 岡 義 彰君	秋田縣土木課	戸 田 大 三君	青々哈爾濱鐵路局工務處	松 田 昌 治君	北海道會社工場部鐵道工務研究室
鎌 田 華 男君	樺太廳大泊鎮港事務所	鳥 山 貞 雄君	關東總督府交通局運輸課	松 橋 作 藏君	秋田縣盛岡土木事務所
川 邊 正 人君	山口縣土木課	奈 良 操 君	東京市土木局向島區出張所	九 山 和 太郎君	鐵道省南道土木課岡山管區
河 野 康 雄君	鐵道省熱海建設事務所	中 島 修 一君	鐵道省盛岡建設事務所	光 永 滿 喜君	青々哈爾濱鐵路工程處改良科
木 村 治 三郎君	東京市土木局王子區出張所	中 谷 岩 雄君	東京市土木局澁橋區出張所	村 上 格 君	徳島縣土木課
北 村 英 次郎君	鐵道電力會社	中 島 亮 君	東京府廳土木部	村 田 義 信君	朝鮮總督府内務局土木課
吉 川 要 君	静岡縣三島土木出張所	中 村 明 兵衛君	鐵道總督府交通局運輸課	村 山 朔 郎君	鐵道省建設局工務課
許 稔 君	朝鮮京畿道土木課	中 村 秀 男君	山形縣阿賀川土木出張所	元 末 太 郎君	徳島縣宮岡土木出張所小橋島出張所
香 林 喜 作君	九州運輸會社	兒 子 彌 君	廣島縣土木部河原橋	森 本 玄 造君	東京市土木局下水課
佐 川 正 明君	熊本電氣會社土木課	西 島 近 義君	東京市土木局江戸川區出張所	安 田 善 一君	大阪市港灣部技術課
佐々木 清君	滋賀縣愛知川工區事務所	布 川 治 夫君	朝鮮總督府内務局土木課	山 本 亨 三郎君	朝鮮總督府内務局土木課
佐々木 鐵君	朝鮮總督府内務局土木課	沼 田 等 君	東京市水道局調整課	横 山 正 徳君	〃
佐 藤 利 春君	北海道廳札幌治水事務所	龍 登 富 五郎君	秋田縣盛岡土木事務所	和 田 勘 三郎君	同前大連保線區
櫻 井 亨 君	鐵道省熱海建設事務所	鶴 澤 俊 太郎君	瀧川四平街地方事務所	渡 邊 重 治君	瀧川新設建設事務所
眞 田 重 雄君	朝鮮總督府内務局土木課	東 寅 雄君	門司市土木課	渡 邊 直 治君	瀧川市街地事務所

學 生 員

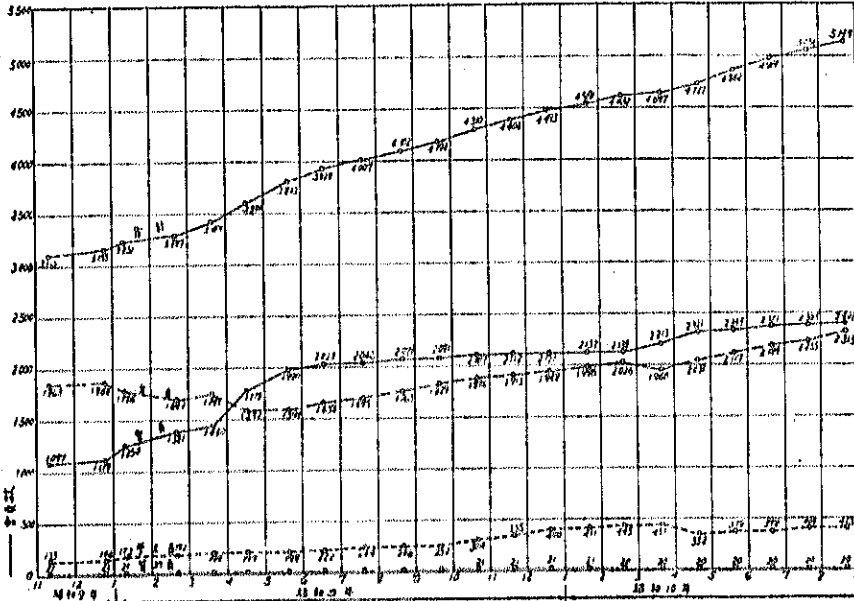
三谷純義君 早稻田高工

轉 格 の 部

會 員

枝松 鷹次君 三浦 俊一君  
油 員  
戸井田岩一君 山田 俊介君

會 員 移 動 一 覽 圖 表



○圖 書 及 び 雜 誌 (昭和 10 年 8 月中)

交 換

鐵 鋼 第 21 年 第 7 號	日 本 鐵 鋼 協 會	日 本 建 築 士 第 17 卷 第 3 條	日 本 建 築 士 會
港 灣 第 13 卷 第 8 號	港 灣 協 會	電 氣 學 會 誌 第 55 卷 第 8 册	電 氣 學 會
The Journal of the Society of Chemical Industry, Japan, August, 1935.		都 市 問 題 第 31 卷 第 2 號	東 京 市 政 調 査 會
工 業 化 學 雜 誌 第 38 卷 第 8 號	工 業 化 學 會	工 政 10 年 8 月 第 184 號	工 政 會
衛 生 工 業 協 會 誌 第 9 卷 第 7 號	衛 生 工 業 協 會	建 築 學 會 誌 第 49 册 第 003 號	建 築 學 會
道 路 の 改 良 第 17 卷 第 8 號	道 路 改 良 會	機 械 學 會 誌 第 38 卷 第 230 號	機 械 學 會
建 築 と 社 會 第 18 輯 第 8 號	日 本 建 築 協 會	資 源 第 5 卷 第 9 號	資 源 局
水 道 協 會 誌 第 27 號 10 年 8 月	水 道 協 會	造 船 協 會 第 101 號 8 月 號	造 船 協 會
業 務 研 究 資 料 第 23 卷 第 22~23 號	鐵 道 大 臣 官 房 研 究 所	帝 國 鐵 道 協 會 會 報 第 30 卷 第 8 號	帝 國 鐵 道 協 會
動 力 第 37 號 10 年 8 月	日 本 動 力 協 會		

寄 贈

日 本 建 築 雜 誌 第 14 卷 第 8 號    シ ン ン 社    三 菱 電 機 第 11 卷 第 4 號    三

Excavating Vol. 20 No. 6	三井物産機械部	酸性平爐に依るニッケル合金鋼の精鍊	日本ニッケル時報局
利根 第1卷 第7-8號	利根製作營業所	Bulletin de l'Association Internationale des	日本ニッケル時報局
工學院同窓會誌 第37卷 第8號	工學院同窓會	Ponts et Charpentier, August 1935 No. 2.	日立評論社
樺太廳中央試驗所報告 第2類(林業) 第2-4-6號	樺太廳中央試驗所	日立機械評論 昭和10年7月第21號	日立評論社
鑄物 第7卷 第8號	日本鑄物協會	セメントコンクリート鐵路 No. 32	セメント工業社
セメント界輿論 8月第 第320號	日本ポルトランドセメント同業會	帝國學士院紀事 第11卷 第7號	帝國學士院
ニッケル合金鋼の鍛鍊	日本ニッケル時報局	エンジニアアー 第15卷 7月號	都市工學社
工業現勢 第4卷 第8號	東京工業大學工業調査部	技術日本 2595年 8月	日本技術協會
沖電氣時報 Vol. 2 No. 4	沖電氣株式會社	滿洲建築雜誌 第15卷 第8號	滿洲建築協會
工學 No.252 A.V.G1935	東京工學社	鐵道技術 第0卷 第9號	鐵道技術社
工事畫報 第6卷 第8號	工事畫報社	學報 第4卷 第8號	東京工業大學
滿洲技術協會誌 第12卷 第76號	滿洲技術協會	セメント工業 昭和10年9月號	セメント工業社
水曜會誌 第8卷 第8號	水曜會	三菱電機 第11卷 第5號	三菱電機株式會社
國立公園 第8卷 第7號	國立公園協會	日立評論 第18卷 第9號	日立評論株式會社
江名漁港擴張計畫概要	港灣協會	共同火力尾崎發電所設備概要	關西共同火力發電株式會社
總津漁港修築計畫概要	港灣協會	東京土木建築業 第8卷 第8號	東京土木建築業組合
セメント工業 昭和10年 8月	セメント工業社	七街對數表の使ひ方	眞 岡 隆 介
G.S. news 第9卷 7月號	日本電池株式會社	技術家用製同要覽	眞 岡 隆 介
勞働者災害扶助年報	日本土木建築諸負聯合會	コンクリート作業必携 全	野 澤 房 敬
伸び行く京城電氣	京城電氣株式會社	地質工學	渡 邊 貫
骨組の力学 第1卷	コロナ社	工業數學	福 田 武 雄
會務彙報 第45號	日本土木建築諸負聯合會	コンクリート鉄筋コンクリート便覽	中 村 猪 市
ニッケル合金鋼鐵鑄造法	日本ニッケル時報局	鐵道線路と建造物	川 越 温
Statuts	坂 辭 雄	橋梁工學特論 第1卷	高 橋 逸 夫
Practical Engineering Vol. 3 No. 8	滿洲電氣協會	工業數學概要	梶 島 三 郎
滿洲電氣協會々報	滿洲電氣協會	小池橋梁工學 第1~3卷	小 池 啓 吉
日本鑄業會誌日録註=索引	日本鑄業會	材料文獻集 昭和7~8年度	材料研究會
重要發明題目 昭和10年 7月	特許局	構造強弱學 上・下卷	大淵高彦, 近藤泰夫

購 入

Der Bauingenieur, August 1935, Heft 29~32.  
 Beton und Eisen, August 1935, Heft 14~15.

Engineering News-Record, July 1935, Vol. 115  
 No. 31~33.  
 Die Bautechnik, August 1935, Heft 30~33.

會員 谷 誠君, 佐々木直太郎君, 田中傳吉君, 木村武夫君, 准員 木口利雄君の  
 計報に接し、本會は甚しく哀悼の意を表す。

# 會 告

## 秋季視察旅行開催通知 (雨天中止)

下記の通り第 23 回視察旅行を催します、奮て御参加あらんことを切望致します。

- (1) 日 時 昭和 10 年 10 月 27 日(日曜日) 28 日(月曜日)
- (2) 集 合 東班(東京發) 27 日 午前 8 時までに東京驛 2 等待合室に集合  
西班(大阪發) 27 日 午前 7 時までに大阪驛前に集合
- (3) 行 程 27 日(日曜日) 東班(東京發)は東京驛を午前 9 時の列車にて出發し(汽車中にて昼食)静岡驛に午前 11 時 45 分着自動車に便乗し東海道をドライブ安倍川橋、大井川橋、金谷隧道、天龍川橋、濱名湖橋等を視察し午後 6 時蒲郡に到る。

西班(大阪發)は午前 8 時大阪驛前より自動車にて出發し京阪、京津国道、瀧田川橋を視察、草津に到り昼食し再び自動車に便乗し鹿嶋を経て桑名に出で伊勢大橋、尾張大橋を視察し午後 5 時蒲郡に到り蒲郡ホテルに於て東西合同の大懇親會を開き。

第 1 班(蒲郡へ一泊せざる組)の東班は 27 日(日曜日) 午後 11 時 30 分蒲郡驛を發し 28 日(月曜日)午前 6 時 25 分東京驛に着き解散。西班は 27 日(日曜日) 午後 10 時 41 分蒲郡を發し 28 日(月曜日) 午前 5 時 24 分大阪驛に着き解散とす。

第 2 班(蒲郡へ一泊の組)は 28 日(月曜日) 午前 7 時 58 分蒲郡驛發にて午前 9 時 9 分名古屋驛に到り市土木工事、名古屋港、名古屋驛高架線工事、その他を視察昼食の上東班は午後 1 時 16 分名古屋驛を發し(汽車中にて夕食)午後 7 時 45 分東京驛に着き解散。西班は午後 2 時 25 分名古屋驛を發し(汽車中にて夕食) 午後 7 時 25 分大阪驛に着き解散とす。

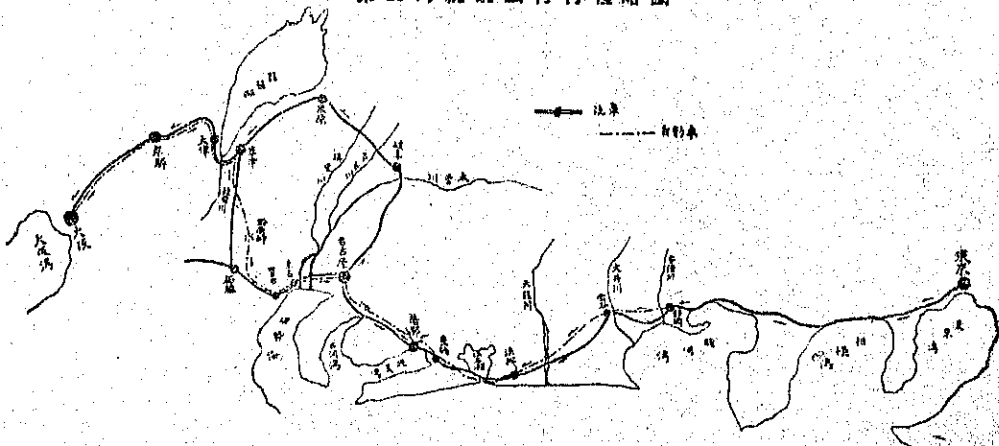
- (4) 會 費 (第 1 班、汽車一泊) 東班 22 圓(汽車 2 等) 但鐵道無賃乗車證利用の方は 9 圓 50 錢  
西班 19 圓(汽車 2 等) 但鐵道無賃乗車證利用の方は 12 圓 50 錢  
(第 2 班、蒲郡一泊) 東班 30 圓(汽車 2 等) 但鐵道無賃乗車證利用の方は 15 圓  
西班 23 圓(汽車 2 等) 但鐵道無賃乗車證利用の方は 16 圓

◎會費は(汽車有賃參加者 30 人以上の場合)は團體割引あり精算の上集金郵便にて頂きます。

- (5) 參加申込 10 月 20 日までに御申込み下さい、途中より參加御隨意です。

◎參加の際は土木學會徽章を必ず御佩用願ひます。(徽章の無い方には 50 錢で差上げます)。

第 23 回視察旅行行程略圖



# 會 告

## 會員名簿調製に就て

○昭和 10 年度本會々員名簿を作製するに當りまして、正確を期するため、記録名簿と一應照合致したいと思ひまして、9 月 30 日までに現住所、職業との他所定の事項を、従前の通り何等變更せられない場合でも、必ず御通知下さる様、會誌第 21 卷第 8 號會告にて御願ひ致しましたが、未だ通知せられない方は至急に御回報を願ひます。

○所定の通知用紙は會誌第 8 號に綴込んであります。

## 御住所不明會員に就て御願ひ

下記諸君は轉居先の御通知がないため、會誌の配布を始め、その他の諸通信が出來ませんのは、誠に遺憾であります、どうぞ知人の方は御手數恐れ入りますが、御本人に御注意下さるか、本會にその住所又は勤務先を御知らせ願ひます。

### 會 員

荒川參太郎君	伊東祐介君	稻葉綱吉君	木村眞一郎君	小林源次君	藤 増 能君
張 雅 和君	陳 設 椿君	鎌永泰夫君	富永芳太郎君	中島健吉君	傳 銳君
藤原 讓君	藤原辰四郎君	丸林筑郎君	村田 清君	安西榮太郎君	山本 格君
山本 弘君	山本保之助君				

### 准 員

和泉高巖君	池田乙次郎君 (英君一助)	池田的太郎君	石原三郎君	岩田正平君	箕 汝 誠君
小川綱一君	緒方政雄君	大森鶴吉君	持崎鉄久君	片岡 麟君	龜田 謙君
城内清太郎君	菊池三吉君	聖田忠治君	小林義雄君	佐藤興吉君	齋藤賢策君
末永政規君	關 佳 夫君	曾我 健君	田代岩平君	田所英吉君	田中武次君
多田英三郎君	高瀬夫吉君	高橋理一郎君	武田忠一郎君	谷 徳 一 郎君	谷口清三郎君
徐 三 善君	平井 基君	中野順太郎君	南保忠三君	藤波壽一君	丹羽賢倫君
西野清長君	野口金夫君	森原官六君	濱崎頼四郎君	平本源太郎君	藤村禮士君
脇橋貞一君	巻内一夫君	萬 野 潤君	水原巖文君	宮田 健君	村田勝次君
末橋三郎君	矢野巖吉君	山尾茂夫君	山田政次郎君	山本敏雄君	横田清治君
吉金亮三君	吉田三徳君	吉 丸 養君	吉見胤彦君	副 作 楓君	

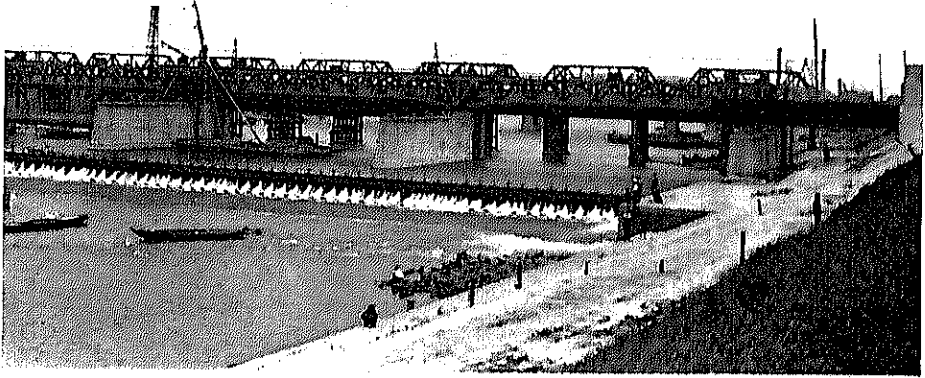
## 土木工學論文抄録頒布に就て

○昭和 9 年 10 月本會に於て發刊致しました土木工學論文抄録の残部があります、御希望の方は御申出下さい、3 圓 50 錢で頒布致します。

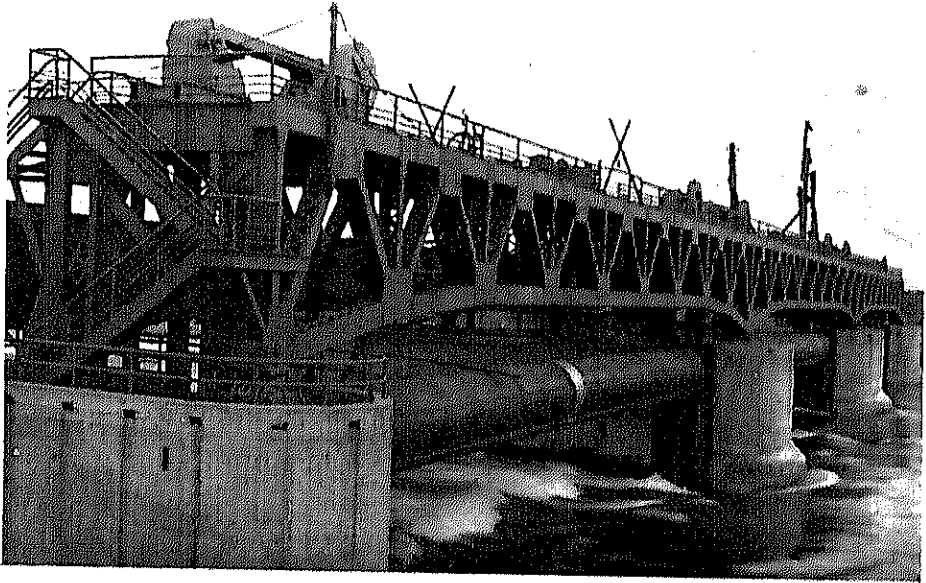


# 竣工せる大阪市長柄可動堰

下流側より見たる可動堰（前面起伏堰は舊堰）



上流側より見たる可動堰



- 位置： 大阪市新淀川長柄橋大阪側 3 裡間  
堰原構造： 各直径 1.8m、長さ 34.50m、重量 50.7t 鋼製圓筒  
堰上水位： 1.8 m  
操作： 2 條の鋼鎖にて對重に連結し、橋上に設置せる 30 馬力の電動機により昇降せしむ  
操作時間： 全開 8m、約 5.5 分（電氣操作）  
                  "          約 0.5 時間（手動操作）  
工事着手： 昭 9. 11. 10、 工事竣工： 昭 10. 7. 31



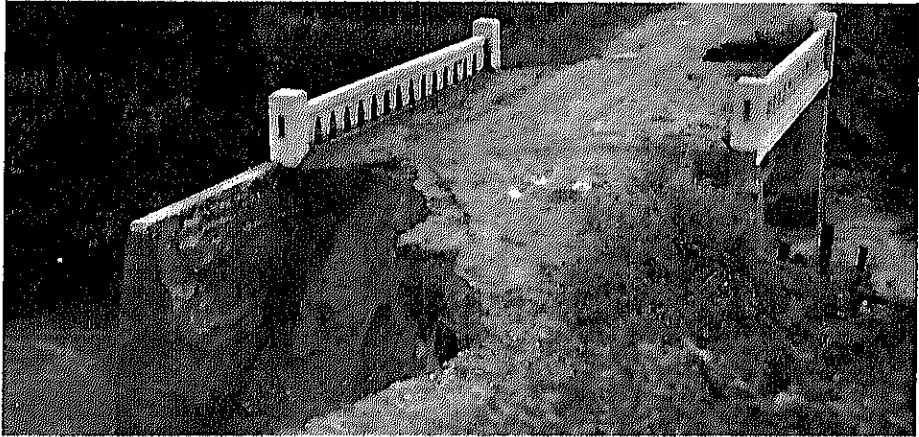
# 青森縣下水害狀況

(昭和10年8月25日)

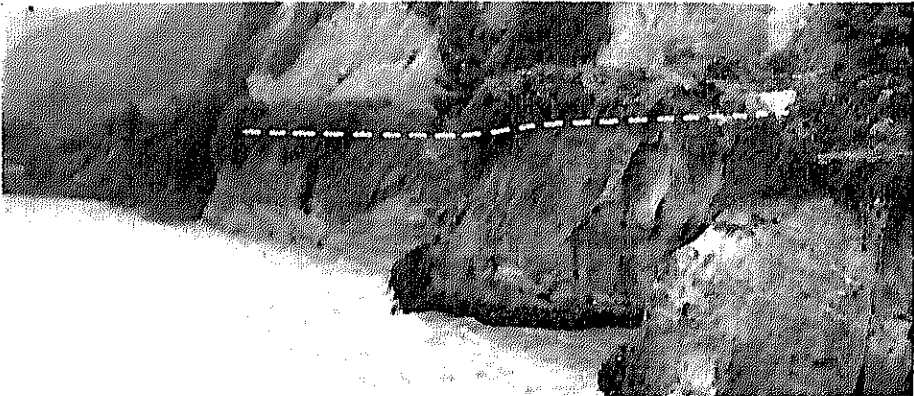
柏木町・弘前線館田橋流失後の狀況 (南津輕郡大光寺村大字館田地内)



吹上・黒石線浅井橋軸欠潰の狀況 (南津輕郡尾崎村大字浅井地内)

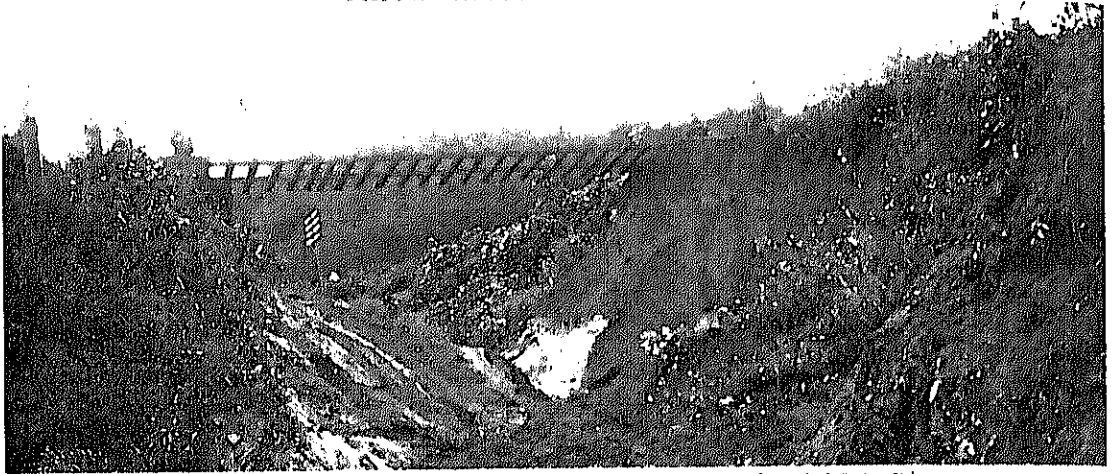


町属頃の欠潰の狀況 (白糠の所に道路があつた、南津輕郡山形村大字温泉附近)



# 鐵道水害狀況

奥羽本線大釋迦・鶴ヶ坂間線路盛土滑落狀況



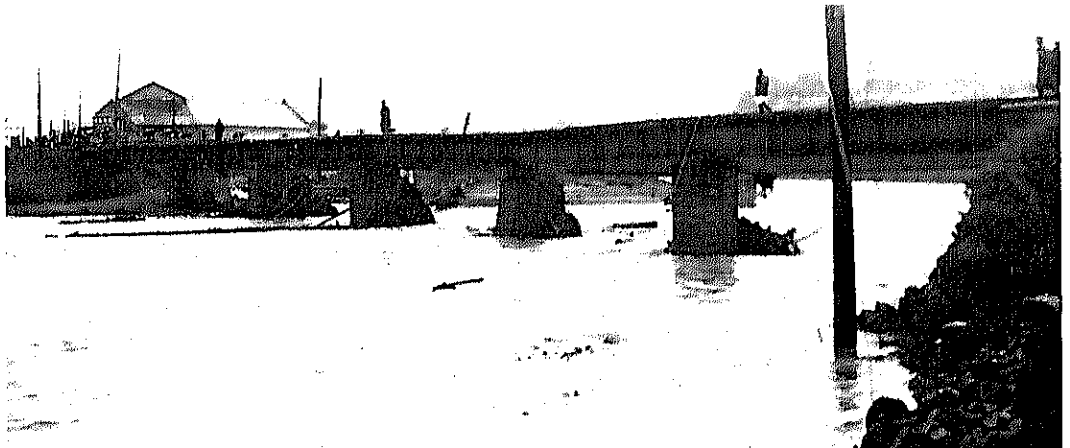
大釋迦西 470 km 080 m 附近、延長 15 m、高 8 m、約 4000 m<sup>3</sup> 盛土滑落せる状況 (昭和 19. 8. 25 午前 3:00 撮影)

奥羽本線大鰐驛構内線路流失狀況



大鰐驛の南方を流るゝ平川の堤防決壊し、奔流大勢全線を繞り廻りに大鰐驛を襲ひ構内の線路を河流したる状況 (昭和 19. 8. 25 午後 10:30 撮影)

奥羽本線大鰐驛構内鐵道橋々脚倒壊狀況



平川の洪水に因りて大鰐驛北端なる平川鐵道橋第 4 橋脚の倒壊したる状況 (昭和 19. 8. 25 午前 11:18 撮影)

# 會 告

## 圖書御寄贈の御願ひ

本會は本會所有の圖書雜誌を整理し、圖書室を設備致しましたが、現在所有の圖書は未だ充分とは云へませんから、會員の著書共の他圖書雜誌は大小に拘らず學會宛御寄贈下さる様御願ひ致します。

## 圖書室及び娛樂室御利用に就て

本會所有の圖書及び雜誌は本會圖書室に備付けてありますから、下記時間内御随意に御閲覧下さい。尙娛樂室には非、將棋盤を備付けてありますから御利用を御願ひ致します。

自9月1日至12月31日 自7月21日 及土曜日自午前9時至午後4時、  
自1月1日至7月20日 自午前9時至午後8時、 至8月31日

但し、日曜日及び祭日休。

## 徽章佩用に就て

本會の徽章は一般會員の方々に必ず佩用して頂く事に致してをります。講演會、見學會共の他事務所御利用には徽章佩用を必要としますから、未だ佩用せられぬ方は至急御申出下さい。

1. 徽章の寸法 徑 14mm
2. 品目 銀地金文字浮出し
3. 種類 晴襟佩用と洋服佩用と別あり
4. 實費 金 50 錢 (郵送の場合は外に消留宛頭書 1 封の料を 10 錢を要す)



## 寄稿に関する注意

1. 用紙：成るべく本會の原稿用紙を使用され度し。原稿用紙は御請求次第御送り致します。
  2. 頁数：頁数は本會の原稿用紙 180 枚（本會誌 30 頁）以内とされ度し。若し前記頁数を超過する場合は登載をお断りすることがあります。
  3. 文體：文體は文章的口語體とす。本文に重要な関係のない前置、挨拶等は省く事。この方針に基き適當に字句の修整、短縮を行ふことがありますから御了承あり度し。
  4. 書體：楷書とし、假名は平假名、數字は算用數字、ローマ字は日本式ローマ字を使用され度し。大歐字は特に明瞭に認められ度し。例へば  $n$  と  $u$ ,  $u$  と  $v$ ,  $r$  と  $v$ ,  $a$  と  $q$ ,  $r$  と  $\gamma$ ,  $d$  と  $\delta$ , その他  $C$  と  $c$ ,  $K$  と  $k$ ,  $O$  と  $o$  等頭字と小字とを判然たらしむる事。
  5. 算式標準：(1) 本文文字間に挿入する算式は  
例へば  $a/b$  と書き  $\frac{a}{b}$  を避け、 $(a+b)/(c+d)$  と書き  $\frac{a+b}{c+d}$  を避けること。  
(2) 數字  
數字は 3 桁毎に間隔をあける事 名數は次の如く書き 括弧内の如く書くを避けること。例へば  
35 錢（三十五錢）、13.56 圓（十三圓五十六錢）、1~4 時間（一時間乃至四時間）、  
88 326 t（八萬八千三百二十六噸）、1985 年 1 月 1 日（千九百三十五年一月一日）、  
m（米）、m<sup>3</sup>（立方米）、kg（kg）、l（立）、88.4 尺（八丈三尺四寸）
  6. 用語：応用力學及コンクリート用語は工學會決定用語を使用され度し（應用力學用語は本誌第 10 卷第 5 號、コンクリート用語は第 20 卷第 0 號會告参照）。  
コンクリートは片假名で記し漢字を用ひざること。
  7. 圖表：(1) 圖表には圖表題を記すこと。  
(2) 複雑なる表の如きは成るべくグラフにて示す事。  
(3) 圖面はその儘縮寫し得る様にトレーシング・ペーパー、オイル・ペーパー、トレーシング・クロス等とすること。  
(4) 圖表は凡て墨色を用ひインキ類或は採色を施さざる事。  
(5) 方眼紙は青罫のものを用ひ（黄色、赤色の罫は使用せざる事）縦横線を必要とする部分には豫め墨線にて之を描き置くこと。  
(6) 圖表の文字、數字は特に大きく書かれ度し（縮寫の標準は 1/2~1/5 程度を以て縮寫後の文字の大きさを約 2mm 程度となる様され度し）。  
(7) 圖表類は製版の都合上かなり汚損するものと豫め御含み下され度し。
  8. 寫眞：寫眞は特に明瞭なるものを送られ度し。
  9. 其他：(1) 論說報告は邦文に限る。  
(2) 論說報告には必ず冒頭に英文表題及び邦文要旨並に著者の職名及び勤務所名を添附され度し。
- 附記：(1) 論說報告、彙報、抄録及び工事寫眞にして掲載せる分には謝辞を呈します。  
(2) 講演、論說報告の各欄に掲載の分には抜刷 20 部を寄稿者に贈呈致します。尚 20 部以上御希望の向には豫め御通知ある場合に限り實費にて御要求に應じます。

## 會員轉居轉勤の場合の注意

會員の御轉居又は御轉勤の場合は即時明細に御通知下され度し。

## 會費納付に付き注意

會 費	會員種格	會費年額	第 1 期分 (1 月～6 月)	第 2 期分 (7 月～12 月)
	會 員	金 12 圓	金 6 圓	金 6 圓
	准 員	金 9 圓	金 4.50 圓	金 4.50 圓
	學生員	金 6 圓	金 3 圓	金 3 圓

新入會者は月割計算とす。

納 期 第 1 期分：3 月 第 2 期分：9 月

納付方法 集金郵便を差向けます（旅行等にて御不在の場合も拂込に支障なき様御配慮下さい）。

振替郵便御利用の場合は振替口座東京 10828 番へ願ひます。

朝鮮滿洲の一部等振替貯金を取扱はざる地に居住せらるゝ會員は納期の翌月末迄爲替その他の方法に依り御送金相成たし。

會費一時納付の御豫定の場合は豫め御通知下されたし。

未納の場合 集金郵便に對し故なく支拂を拒絶し又はその他の方法により御送金なき場合は會費滞納者として遺憾ながら定款第 2 章第 14 條第 1 項に依り會誌の配布を停止せられます。

## 會誌未着の場合の注意

會誌は毎月 25 日に發行し漏なく配布致しますから、未着の場合には一應本會に御照會下さい。

發行後數ヶ月経過しての照會は時に殘部皆無となり配布不可能の場合があります。

# 既刊會誌殘部内譯

(\* は残部有るものを示す)

巻	號	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	金額(1部) (円)
5		*	*	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	1.00
6		—	—	—	—	—	*	—	—	—	—	—	—	1.00
7		—	*	*	*	—	—	—	—	—	—	—	—	1.50
8		*	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	2.00
9		*	*	*	—	*	*	—	—	—	—	—	—	2.00
10		—	*	*	*	*	*	—	—	—	—	—	—	2.00
11		—	*	*	—	—	—	—	—	—	—	—	—	2.00
12		—	*	*	—	*	*	—	—	—	—	—	—	2.00
13		—	*	*	—	—	*	—	—	—	—	—	—	2.00
14		*	*	*	*	*	*	—	—	—	—	—	—	2.00
15		*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	1.00
16		*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	1.00
17		*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	1.00
18		—	—	*	*	*	*	*	*	*	*	*	—	1.00
19		*	*	*	—	*	*	*	*	*	*	*	*	1.00
20		*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	1.00
21		—	—	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	1.00
第 20 巻第 12 號 (創立 20 周年記念號)														1.50
第 21 巻第 7 號 (會誌索引付)														1.80
東京市内外交通に関する調査書														3.00
震害調査報告書(1, 2, 3)														18.00
應用力學聯合大會講演集														1.00
鐵筋コンクリート標準示方書														0.50
同上 解説														1.00
土木工學論文抄録														3.50
土木學會誌索引(第 1 巻第 1 號—第 20 巻第 12 號)														0.50

上記残部會誌御希望の場合は所要金額を掲載口座東京 16828 番に掛込用紙通信欄にその旨記入請求せられたし。

## 廣 告 料

普通廣告 1 回 1 頁 35 圓 1 回半頁 20 圓

指定廣告 {裏表紙 3 面對  
向及廣告初頁} 1 回 1 頁 40 圓  
{裏表紙 3 面  
色アート} 1 回 1 頁 70 圓  
1 回 1 頁 60 圓

○指定廣告は凡て1箇年繼續申込のものに限り取扱ふものとす

○會員自身の廣告に對しては總て上記料金の割引とす

○同一廣告の連續掲載申込に對しては 1 年 4 回以上 1 割引とす

○廣告に寫眞版又は木版等を挿入する場合は之に要する實費を別に申受くるものとす

# DOBOKU-GAKKAI-SI.

(JOURNAL OF THE CIVIL ENGINEERING SOCIETY.)

---

VOL. XXI, NO. 9, SEPTEMBER, 1935.

---

## CONTENTS.

	Page
Proceedings of the Society. ....	77
<b>Papers.</b>	
On the Discharge in Cast Iron Pipes. <i>By Tokusaburô Itada, Dr. Eng., Member.</i> .....	1217
On the Construction Work of the Cofferdam for the Sinanogawa Hydro-Electric Work. <i>By Kinzi Oda, C. E., Member.</i> .....	1241
On the Improvement Works of Siodome Goods Station. <i>By Teruo Satô, C. E., Assoc. Member.</i> .....	1253
Discussions. ....	1275
Notes on Matters of Interest. ....	1277
Abstracts of Selected Articles. ....	1327
Patent News. ....	1373

---

### OFFICE

No. 6, 3-TYÔME, MARUNOUTI, KÔZIMATI-KU, TÔKYÔ, JAPAN.